

【試験日】平成18年10月15日(日)
 【試験時間】13時30分～(制限時間2時間)
 【受付期間】7月25日(火)～8月25日(金)
 【合格基準】100点満点で70点以上が合格。
 【受験資格】学歴、年齢、国籍を問わず誰でも受験可能。
 【出題範囲】マークシート方式、発売済の公式テキスト準拠
 【グレード】「級」などのグレード設定はない
 【受験料】5250円(税込み)
 【合格者】合格者が問題意識をさらに高め、専門分野へ進むことなどを希望する場合に対応できるような体制を、今後、企画・検討していく予定。
 【問合せ先】京都商工会議所人材育成
 TEL: 075・241・1377

(文)京都商工会議所 会員サービス部
鈴木岳

環境社会検定試験の通称です。東京商工会議所・各地商工会議所では、企業や地域社会、家庭などあらゆる場面で環境保全に自発的に取り組む「人」の育成を目的とした検定を実施することを決めました。
 内容は専門的な知識を問うものではなく、すべての企業人・生活者が環境問題に関心を持ち、その歴史・現状・取り組みなどの知識を一般的なものとして共有するための仕組みとなるものです。そして、それを学ぶことにより、企業や地域社会、家庭など、あらゆる場面でエコ活動に自発的に取り組むことのできる「人」の育成を目指します。概要は以下のとおり。

京都GPN-news vol.6

京都グリーン購入ネットワークニュース

CONTENTS

- 京都 GPN 第 3 回総会 記念講演「環境と経済・経営・社会」 … P.2
- 2006 年度は京都 GPN 加入メリット、会員拡大を重点課題に … P.3
- 会員紹介 / 役員紹介 … P.3
- グリーン購入まめ知識 / グリーン名刺交換会 … P.4

京都 GPN 第 3 回総会 記念講演 TOPICS テーマ:「環境と経済・経営・社会」

京都グリーン購入ネットワーク代表幹事/京都大学大学院経済学研究科教授及び同地球環境学堂教授 植田和弘

.....
 去る 2006 年 6 月 5 日(月)、京都市内のはるらプラザにて第 3 回総会が行われました。当日は一般参加者を含む約 60 名が出席し、グリーン購入への関心を高め、情報交換をする場となりました。ここでは当日記念講演として行われました代表幹事である植田和弘の講演内容を紹介いたします。



10年、5年前くらいまでは、「環境と経済は両立しない」といわれていた。成長すると化石燃料の消費が増える。しかし、環境も雇用も大事だ。最近ではその両方を両立させるための議論が増えてきている。

二重の配当を生み出す環境税

例えば、ピンスパンガ教授は環境税による「二重の配当」を考えた。化石燃料を多消費することに課税し、環境税で得た税収を企業の社会保険料の軽減につなげる。これによって、温室効果ガスが削減できて環境もよくなり、雇用も促進される。賛否両論はあるが、実際すでにドイツやフィンランドなどで導入されているアイデアだ。

ファクター4、ファクター10

ファクター4、ファクター10という言葉が聞けるようになった。これは、豊かさは2倍にするけれど、技術の質の向上によって、サービスや提供する材をつくる時の環境負荷は2分の1にすることによって、トータルとしては4倍よくすること。売上げが増えると必ず排出量が増える、生産量が増えると必ず汚染物質が増えるといった概念、通念があるがそれを覆すものとなる。家電メーカーなどで導入されており、今後も、技術の向上はかなりまだできるのではないかとはいっている。

脱物質化

よくにたものに脱物質化というものがある。同じものをつくる時にできるだけ使う量を少なくし、廃棄物を減らすことを意味する。売上げが増えると排出量が増える、生産量が増えると汚染物質が増えるといった概念、通念というか思いこみがある。しかし、意識的に取り組んでいくとかなり環境負荷の軽減ができる可能性がある。

ポーター仮説

ハーバード大学のポーター教授が提唱した「ポーター仮説」。1970年から85年ぐらいまでの15年間、日本と西ドイツ、アメリカは環境規制が厳しかった。環境規制というのは利益を生まない投資になるのでコストになる。しかし、実は厳しい環境規制の方が生産

性の向上率が高いことをポーター先生が指摘した。アメリカには厳しい排ガス規制であるマスキー法がある。多くの日本の自動車会社はアメリカ市場に進出したいと考えていた。日本の会社も最初は基準を満たす車はできないといっていたが、日本のある会社ができるという出し、規制を技術革新で超えた。日本車がアメリカに進出していく一つの契機になった。積極的に環境に取り組んだことで開発力が高まった。ポーター先生は積極的に戦略的に環境があたらしい技術をうみだす一つのドライビングフォースになる、と考えた。我々は環境の観点から行わなくてはならない技術革新がたくさんあると考えていい。二重の配当、脱物質化社会、ファクター4、ポーター仮説。これらは全部、環境と経済を両立させるためのアイデア。ここ15年くらいで頻りに出てくるようになった。学術的に全てが定説になっているわけではないが、こういう議論が増えてきたことは確信を持っていえるし、こうした議論を増やしていかなければいけない。

環境と経営

経営は経済とはちがう。マクロで環境と経済が両立しても、経営は個々の企業の判断になる。経営は、京都グリーン購入ネットワークや個人とか家計とか、いろんな組織、団体、それぞれ全ての組織全てのアクターを考えていかなければならない。中でも企業は力があるし、扱っている量も多いので影響力のあるセクターといわざるを得ない。それぞれ全ての組織が環境管理システムをいれていくことが大事。ISO14001はシステムなので、これをパフォーマンスにいかすことが重要。環境システムのいいところは、(エネルギーのことなどを)自分で考えるようになることだろう。考えるためには情報が必要となってくる。

生産者と消費者が共に進化が必要がある

商品サービスを選択するとき、環境のことを意識させるための環境ラベルなどの情報は、コミュニケーションの場が多いことが重要。例えば環境ラベルなどを作ったとしても、その意味が消費者に分かるかどうか、という問題がある。例えば、家電メーカーが鉛を製品から取り除こうとしているが、それがどの程度意味のあるものなのか、わからなかったら意味がない。わかってもらえる消費者がいないと生産者がつくっても意味がない。だから頑張っている企業(生産者)は、理解してくれる消費者の育成をしないといけない。せっかく消費者として頑張ろうと思うと、頑張る生産者をつくらなければならない。そういう双方向を実現するためにいろんな仕組みがつけられていく。

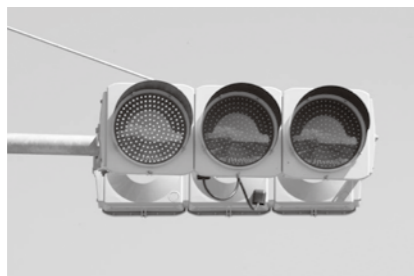
環境と経済、両立させるためには、消費者も企業も進化していかなければならない。「共進化」といっているが、生産者として消費者を支える仕組み、制度が必要で、この制度も進化していかなければならない。

※記念講演の全文は京都GPNウェブサイト www.k-gpn.orgに掲載します。

グリーン名刺交換会

星和電機株式会社

■担当者: 比良 元紀
 ■連絡先: 610-0121 京都府城陽市寺田新池 36 番地
 電話: 0774-55-9318 FAX: 0774-58-2389
 E-mail: HIRA_motoki@seiwa.co.jp
 ■グリーン購入に関して企業 PR
 当社では事務用品(紙製品、ファイル、ペン)を対象に、詰め替え可能品や環境ラベルのある商品を優先して購入することにより、エコ製品購入の採用拡大によるグリーン購入の推進を行っています。
 また、LED(発光ダイオード)式信号機、LED照明モジュール、鉛フリーのカッチングダクトなど、省エネ、長寿命化、環境負荷低減に寄与した環境配慮製品の開発にも取り組んでいます。
 京都GPNが、環境への取り組みに関する新たな情報交換の場になることを期待しています。



平安リネン工業株式会社

■担当者: 営業部 大谷 孝博
 ■連絡先: 610-0101 京都府城陽市平川長箴 67
 電話: 0774-53-5500 FAX: 0774-53-5502
 E-mail: heianlinen@msa.biglobe.ne.jp
 ■グリーン購入に関して企業 PR
 昭和50年に工業クリーニング業として創業。マット、モップ、ウエス、軍手の洗い等、仕事そのものがリサイクルの歯車として拡大。平成10年にわが国最初にペットボトル再使用のリサイクルマットを開発し、これを機に(株)白洋舎と提携して全国展開を図っています。また、再使用出来なくなったウエス等を反毛し、糸にしてウエス再生軍手を作成し、廃棄物を少しでも少なくなる様に努力しています。そして、平成14年3月、ISO14001を認証取得し、環境貢献企業を目指して頑張っております。



京都グリーン購入ネットワーク 会員数 (2006年6月現在)

■会員数 113 内訳(企業79 自治体8 団体18 個人8)

■新入会員(3/28~5/25)

株式会社教材研究所 杉浦システムコンサルティング・インク デジタルレポリューション株式会社 白江喜之氏

お問合せ/入会申込み

京都グリーン購入ネットワーク事務局 <http://www.k-gpn.org>

TEL) 075-241-4664 (FAX同じ) [E-mail] kgpn@dolphin.ocn.ne.jp

〒604-0932 京都市中京区寺町通り二条下る吳波ビル3階 特定非営利活動法人 環境市民内



京都グリーン購入ネットワーク

2006年度は京都 GPN 加入メリット、 会員拡大を重点課題に

文/京都グリーン購入ネットワーク事務局長 堀孝弘

【2006年度の重点課題】

2005年度に引き続き、2006年度も京都グリーン購入ネットワーク（以下、京都 GPN）は、「知って、わかって、加入してもらう」をテーマに、以下の課題に取り組み、京都府内にグリーン市場（環境配慮商品が支持される市場）を創出・拡大します。

- 1) 京都 GPN を府内消費者・事業者・行政によく知ってもらう
- 2) グリーン購入の意義を明らかにし、理解を広める
- 3) 京都 GPN に加入するメリットを創出し会員を増やす

なかでも、3)「加入メリット創出、会員拡大」を最重点課題として取り組みます。

京都 GPN は、「広報コミュニケーション」「普及啓発」「環境ラベル研究」の3つの部会によって活動をすすめています。以下、部会ごとにおもな活動を紹介いたします。

【部会活動計画紹介 広報コミュニケーション部会】

広報コミュニケーション部会では、昨年度事業として作成した「会員、商品紹介サイト（ホームページ）」の内容を充実させます。どのような環境配慮商品が、どこで購入できるか、わかりやすくするため、このサイトでは、会員事業者の環境の取り組みと、取り扱い環境配慮商品を紹介いたします。今年度は掲載情報の拡大に力を入れ、「京都で環境商品と言えば、このサイト」と呼ばれるようにしていきたいと思っております。ただし、掲載できるのは会員のみです。

他、同部会が関係する活動としては、年4回のニュース発行や京都 GPN のマーク普及などがあります。ニュースでも毎号会員事業者の取り組みを紹介しています。京都 GPN のマークは、会員であれば名刺やパンフレット等に使ってもらうことができます。



【普及啓発部会】

普及啓発部会は、昨年度グリーン購入を知ってもらうための様々なツールを開発しました。2006年度は、それらを活用して成果に結びつけていきます。

そのひとつ「グリーン購入仕様書作成支援ソフト」は、おもに自治体の商品調達担当者を対象に、発注仕様書を作成する際、どのような配慮を盛り込むことができるか、理解を深めることができます。印刷情報用紙、オフセット印刷を対象に開発しています。今後、グリーン購入に組み込み

はじめた事業者・団体向けのグリーン購入入門プログラムや、電子発注のツールとして活用されるよう働きかけていきます。

ツールとして、もうひとつ「グリーン商品サンプルセット」を開発しました。文房具、トイレトペーパーのセットがあります。自治体主催の市民向けイベントなどで活用されるよう働きかけていきます。

また、昨年に続き、12月に京都府総合見本市会館（パルスプラザ）で開催される「京都環境フェスティバル」への出展を計画しています。会員団体とともに「グリーン購入ゾーン」を設け、今年はゾーン全体にテーマをもたせた展示も検討します。

もうひとつ、「会員企業見学会」を実施します。先進的な活動をしている会員企業の工場や社屋などを見学し、経験や工夫を担当者から直接聞きます。京都 GPN 会員以外も参加可能な行事として実施します。

【環境ラベル研究会活動】

京都府内の企業が扱う環境配慮商品を、買い手である自治体・企業の物品購入担当者に知ってもらうことを目的に、情報リストを作成します。

作成の手順を紹介いたしますと、まず全国のグリーン購入ネットワークの購入ガイドラインをもとに、一定の条件を付加し「京都 GPN ガイドライン」を設けます。その条件にかなう製品情報を販売事業者（会員限定）から収集し、情報リストを作成します。リストは京都 GPN 会員の他、府内全自治体の物品購入担当者に配布します。対象によっては、全国の GPN 会員（約 2,800 団体）に配布します。

コピー用紙、トイレトペーパーからとりかかり、順次、旅館・ホテル、自動車などへ展開していきます。

以上、これらの活動を通じて、京都 GPN は会員団体・個人とともに、「グリーン市場」を創出・拡大していきます。

京都GPN 3つの目的

- 1 環境に優しい商品・サービスを京都府内に普及し、グリーン市場を拡大します。
- 2 グリーン購入に取り組む消費者・事業者・行政の情報交換と活動促進の場とする。
- 3 京都府内で環境に優しい商品・サービスを提供している事業者の活動を促進する。

会員紹介



vol.4

株式会社 エコロ二十一

— やりがいからはじまる環境への取り組み —



お話をうかがった
(株) エコロ21の代表取締役
五十嵐道和さん

京都市内で、小さな風車の発電機を乗せて走っているユニークなタクシー。それは、京都 GPN 会員のエコロタクシーさんの車です。会社の正式名称は株式会社エコロ二十一とい、社名には、いろいろな分野で環境に対する取り組みを行っているという思いがこめられています。その一つがエコロタクシー。ここではさまざまな環境への取り組みが行われています。

次々に始まる環境への取り組み

エコロタクシーではアイドリングストップを設立当初から積極的に取り組んでいます。温室効果ガスのうち20%が運輸によるもので、タクシーを運行させているだけでも環境負荷は大きくかかります。「この業界で働くからには、環境負荷をできるだけ少ないものにしていく」という意識から、設立当初の2002年よりアイドリングストップ機能付きの特別仕様車を全車両に導入しました。当時は、トヨタもこの機能の重要さに気付いておらず、在庫をほとんど保管していませんでした。からもこの取り組みが先進的だったことがうかがえます。昨年は5ヶ月に渡

り、「アイドリングストップ競技会」が社内で行われました。結果、2割ものCO₂排出量の削減に成功。1台ごとの車両のデータが一目で出され、それぞれの車両の燃費や走行距離が一目瞭然となつていきます。まさしく「自分たちでデータを出し、現状を把握・改善する」という環境マネジメントの基を実践しています。燃費が良いと燃料費のコストダウンにもつながります。そのため、減った燃料費の分を奨励金という形で社員に還元し、社員のモチベーションを持続させる仕組みも構築しています。そして、エコロタクシーのシンボルでもある風車発電機。試作機より風の抵抗が少なくなる形にし、電力量も以前の数十倍になりました。この風車で行灯に使用されている発光ダイオード約300個、携帯電話の充電ができます。



全車両 20 台に風力発電機付き行灯つけたエコロタクシー

今年4月より始めたのが、グリーン電力証書によるクリーンエネルギータクシーの運行。グリーン電力証書とは、使用した電力に相当する自然エネルギーを購入することで自然エネルギーの利用をすすめる仕組みのことをいいます。エコロタクシーでは迎車料金一律200円とする一方で、1台分の二酸化炭素排出量に相当する電力の購入費用に当てています。どの企業もコストダウンに必死の今、割高な料金は顧客減少になるのではと考えてしま

います。しかし、こうした環境に対する取り組みに共感を覚え、エコロタクシーに乗ることに喜びを感じ、何度も利用するお客様が増えてきています。実際、業績においてもよい風がふいてきているとのことでした。業務を通じて、社員はお客様の環境に対する新たな気づきを創出しています。

やりがいを感じる職場づくり
環境への取り組みが継続できるのは、社員の理解があつてこそです。それらは、社員一人ひとりを大切にすることを理念によって成り立っています。現代では、ある決められたことができないと人間を駒のように次々と捨てていってしまう傾向があります。しかし、エコロタクシーではパソコンの知識が豊富な人にはウェブサイトの運営を任せたりと、個々の特性に合わせて仕事をしています。そのため、人によっては固定給として出している人もいます。お互いに自分の存在を認め合いながら、やりがいや生きがいを持って楽しく仕事をしています。月に一度は社員全員が集まる円卓会議も行っています。そ

では、エコロタクシーの理念や方向性の共有をはかっています。これも会社が社員と共に歩んでいきたいという強い願いの現われではないでしょうか？ 会社が社員一人ひとりを大事にするので、社員も会社への愛着がわいてきます。それがエコロタクシーの心のこもったおもてなしにもつながり、環境・経済の相互に良い影響を与えていることでしょう。エコロタクシーのような環境に取り組んでいる企業が儲けも出し、そして人間の生きがいを生み出すという好循環を作り出していくことで、他企業への刺激にもなるのではないかと感じました。

役員紹介



京都商工会議所
産業振興部都市整備担当課長
植村章弘氏

今更ながらですが、世は大「環境」時代——。商工会議所の会員様も「企業」という立場から、CSRの大部分を環境への取り組みに傾注されています。「グリーン購入」も企業さんが取り組まれる重要なテーマ。私自身、昨年4月、環境関係の業務担当に就き、グリーンなキーワードに、日々、敏感になるとともに、京都 GPN にも参加させて頂くようになり、微力ながらお役に立てれば、との思いです。

また、京都 GPN 学生レポーター 久保友美